

○清水課長 それでは、皆さん、改めましておはようございます。

定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第2回宇治田原町総合教育会議を開会させていただきます。

私は、本日の司会を務めます総務課長の清水でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本会議につきましては、宇治田原町審議会等の活性化指針に基づき公開としており、事前に会議開催日時を町ホームページにおいて告知の上、傍聴を希望する方に対して傍聴を認めることとしております。

事前に告知をさせていただいておりますので、傍聴者がおられますので、傍聴者におかれましては、お手元に配付させていただいております宇治田原町審議会等傍聴要領に従い、適切な会議運営にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、本会議につきましては、後ほどご説明させていただきますが、前回同様に会議録を作成し、町ホームページにて公表することを予定しております。また、報道機関による取材等を受けた場合には、会議結果、概要等につきまして情報を提供することとしておりますので、各位におかれましてはご了承いただきますようお願い申し上げます。

本日の会議は、お手元にお配りしております次第に沿って進めてまいりたいと考えております。

まず、開会に当たりまして西谷町長よりご挨拶を申し上げます。

○西谷町長 改めましておはようございます。とともに、新年明けましておめでとうございます。輝かしい2019年の新年を皆様ご家族おそろいでお迎えのことと、心からお喜びを申し上げたいと思います。

また、本日は、平成30年度第2回総合教育会議のご案内を申し上げましたところ、皆様方には、大変年始ご多用の中、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

また、平素は本町行政の推進に何かとご理解、ご尽力を賜っておりますことを、この場をおかりいたしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、本年は私にとりましての2期目の町長任期の折り返しの年となります。就任以来、輝く宇治田原の未来を築くために、第5次まちづくり総合計画に基づく重点事業について推進をしてまいったところでございます。

近年の社会情勢は、少子高齢化と人口減少が進み、また消費税増税などの経済の先行

きが最も見にくいという、そういう状況になっておるところでございますけれども、本町に暮らす人々がふるさとを誇りに思い、未来にわたる幸福を感じる、そして元気で健やかに暮らせる、そうしたまちづくりを進めていかなければならないと心を新たにしておるところでございます。

さて、これまで開催してまいりました本会議につきましては、宇治田原町における現状や、また宇治田原町で育つ子どもたちの未来をよりよいものにするための施策、また教育の方向性など、主に小中一貫教育の推進について、教育委員の皆様方からご意見を賜ってきたところでございます。また、宇治田原町の未来を担う子どもたちに関する小中一貫教育については、町議会においても大変関心を高く持っていただきまして、12月の町議会定例会においては、小中一貫教育に関する特別委員会の設置もされたところでございます。

私といたしましても、教育委員会の皆様方、また町議会の議員の皆様方と相談させていただき中で、今後も進めてまいりたいというふうに思っております。大変、今少子化が進んでおるとおるところでございますけれども、京都市内でも選ばれる学校というのはございまして、そういった中で、宇治田原町もやはり選ばれる学校、選ばれる学園にできればなっしてほしいなと願っておるところでございます。

本日におきましても、この総合教育会議の設置の趣旨でもあります首長と教育委員会の意思の疎通はもとより、教育課題や推進すべき教育施策の方向性、そういったものを情報共有する中で、一層連携を深め、教育行政を推進してまいりたいというふうに考えております。こういう機会は大変貴重な機会と捉えておりますので、実りあるものにしてまいりたいと思っております。

委員の皆様方には、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いを申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○清水課長 ありがとうございます。

それでは、本日配付しております資料のご確認をお願いしたいと思います。

まず、次第が1枚ございます。次に、出席者名簿が1枚、そして、小中一貫教育に係る質疑、意見、要望事項といたしまして取りまとめたものがA4裏表3枚、また、これまでの説明会の報告といたしまして1から7、A4裏表13枚、以上でございます。

よろしいでしょうか。

それでは、早速協議事項に入ってまいりたいと思いますが、円滑な意見交換のため、

前回会議と同様、本日の議事の進行を、私、清水が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

本日の協議事項につきましては、お配りをしております資料のとおり、（１）小中一貫教育について、（２）その他となっております。

まず、１つ目の議題でございます小中一貫教育について、説明のほうをお願いします。

○岩井学校教育課長 それでは、失礼いたします。

昨年１０月より、順次開催をしましてまいりました小中一貫教育説明会においていただきましたご質問、ご意見の内容につきまして、私のほうからご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

先ほど、司会のほうより確認のございました資料、A４の３枚物を使用いたしまして進めさせていただきたいと存じます。なお、こちらの資料の作成につきましては、お手元でございます、先ほどの小中一貫教育に係ります説明会、この日にちごとに発言者の要旨を概要版として作成をしまして後、通学方法や教育制度など６つの項目に分けて、質疑、意見等の事項に記載したものでございます。今回は１０月の住民説明会、１１月の小学校保護者説明会、子育て支援センターの利用者説明会の合計７回分をまとめたものでございます。

それでは、事項ごとにご説明をさせていただきます。

まず、お手元の資料１ページ目の通学方法からご説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、小学校の低学年、就学前の保護者の関心が高かった項目でございます。

主な質疑、意見等につきましては、まず１点目といたしまして、スクールバスの質疑、意見でございます。

乗車人数が多く見込まれます緑苑坂、また銘城台などについて、どのような時間帯にどのようなバスの配車をされる予定なのかということ、また南地域の方におきましては、細かく南地区については分かれていますので、その辺についても配車をされるのかどうかというような具体的な質問が出ていたところでございます。また、路線バスよりもスクールバスに対する要望が多い状況でございました。

２点目といたしましては、徒歩の範囲と通学手段についてでございます。

まず、中学校を起点とした場合、どこまで徒歩の地域とするのか、また通学手段といたしまして、中学生は自転車、そして小学生は徒歩かといった具体的な通学手段に関するご質問でございます。また、中学生もスクールバスに乗れるのかというようなご質問

もございました。ただ一方で、徒歩通学のよさということで、地域、また見守り隊の方々との関わりであったり、さまざまな体験ができることから、徒歩で通学できる距離の学校通いとされる方もあったところがございます。

3点目といたしましては、安全な通学路の確保や安全面の配慮に対するご要望が寄せられていたところがございます。

なお、通学に関しましては、ご意見、ご要望を伺う中で、十分詳細等を検討していくというふうに伝えさせていただいております。

続きまして、2ページ目の教育制度に係るところでございます。

こちらにつきましても、保護者の方の関心が高い項目でございました。

主な質疑、意見等につきましては、1点目といたしまして、学力の向上とともに魅力のある学校づくりについてでございます。

内容的には、現在の課題である学力、教育力を一貫教育でどのように伸ばしていくのか、一貫教育にする以上、教育が特徴的、魅力のある独自性を持った学校づくりをしてほしいというご意見が多かったところがございます。

主な2点目といたしましては、クラス替えができる規模、教職員の負担を減らす学校づくりという点でございます。

特にクラス替えができなくなる状況について危惧される保護者の方は大変多かったところです。また一方で、小規模校や少人数での教育効果を主張される方もいらっしゃいました。

3点目といたしましては、制度上に係る内容でございます。

小中一貫教育か、また義務教育学校か、また9年間のカリキュラムはどのようなものかといったご質問が出ておりました。反対に、今のままでも工夫すれば、分離型で小中一貫教育はやっていける、また一体型となれば、学校の教育現場において子どもたちが混乱するのではないかというようなご意見も出ていたところです。教育制度につきましても、専門的な議論を踏まえ検討していくというふうに伝えたところがございます。

次に、3ページ目にございます学校施設でございます。

この学校施設関係におきましては、住民説明会での意見が多かったところで、特に施設一体型に関しましての反対意見が多かった内容でございます。

主な意見といたしましては、小学校の跡地利用についてでございます。現在の小学校が立派な施設なのにもったいない、今後どのような活用をするのかといったご意見です。

また、2点目につきましては、施設のあり方でございます。

こちらについては、一方的に施設のあり方を示すのではなく、十分な協議が必要であろうというご意見、また学校は地域に残すべきではないかというご意見でございます。

3点目といたしましては、土砂災害区域、浸水想定区域に建てるのかということでございます。

また、保護者の方からは、同じグラウンドを小・中学生が安全に使えるのか、例えば、昼休みの遊びであったり、放課後のクラブ活動中のことを指しておられる保護者の方でございます。

次に、4点目の広報・発信事業、同じく3ページでございます。

こちらについては、保護者の方の意見が多かったところです。

1点目といたしましては、広報手段について検討、工夫すべき内容でございます。

主には、新聞をとっていない、ホームページが見られない、子どもを通じてもらえないなど、情報を入手できない状況をつくらないようにしてほしいということです。また、情報発信はできるだけ早く資料等を子どもに持ち帰らせるなどの対応をしてほしい、また広報を定期的に発行し、取り組み状況を知らせてほしいということでございます。

2点目につきましては、説明会についてでございます。

説明会については、項目や対象者を絞って詳しく説明をしてほしい、また、近隣で行っている一貫教育の学校の成果と課題等を紹介し、本町にあてはめた場合の方向性やよくなる点等を説明してほしいということでございます。そして、今後もしっかりといろいろなところで説明を重ねていき、また出された意見をしっかりと活かしてほしいというご意向でございます。

次に、4ページ目の進め方でございます。

こちらにつきましては、住民説明会での意見が多数ございまして、特に施設一体型について賛同できないというご意見が多かったところでございます。

主な意見といたしまして、1点目は、一貫教育と学校の統廃合を一体化したやり方には賛同できないということです。

内容といたしましては、人数的に急いで現在一体型にする必要はないということ、また分離型で工夫をしながら、後に一体型に移行するやり方ではだめなのか、また、まちづくりの人口目標との整合性がとれていないのではないかとこのところでございます。

また、2点目といたしましては、住民の意向が入っているか、入る余地があるかどうかということでございます。

今回説明会をして意見聴取をした後、今出されている原案がどう動くか、またやめる

ことはできるのか、また以前にアンケートをされたけれども、それがどのような形で反映されているのか、今現在は決定したことだけを伝えているのではないかというようなご意見でございます。

3点目といたしましては、住民に途中経過を説明していなかったのではないかと、これについては、先ほどもございます広報の項目でもございましたが、広報が足りない、また住民の意見を聞く場が今までなかったのではないかとということです。

ただ一方で、一貫教育の取り組みに対して重大さを認識し、責任と自信を持って進めてほしいという賛同の方のご意見もあったところでございます。この進め方につきましては、もう少ししっかり計画を立てた上で説明会をしたほうがよいとされる方と、一方的に決めて押しつけている、一から議論をし直すべきだという両極端に分かれていたところ です。

最後になりますが、その他項目、5ページでございます。

こちらにつきましては、主な点といたしまして、まず1点目には、通学経費、校舎建設経費など、財政面についてどのような試算をされているのかということです。

2点目には、子どもが環境に慣れるよう、施設一体型にするのであれば、それまでに交流時間を持ったり、校舎の見学や通学の仕方を体験、指導してほしいというご意見です。

3点目には、上級生からのいじめがないように、しっかりとけじめをつける教育であったり、指導をしてほしいというものです。

また、4点目は、一貫教育が浸透してきたという効果が現在見られることから、教職員、先生方に実践報告をしていただいたらどうかということでございました。また、本町が示す一体型とは違って、まちづくりの観点から小学校を存続させたケースを紹介された方もあったところでございます。

以上、まとめとなりますけれども、12月以降にも幼稚園の保護者説明会、また出前講座にてご説明をさせていただいたところでございます。また、ご意見箱のほうにもご意見を多数いただいております。内容といたしましては、今私のほうからご説明をさせていただいたものと類似している状況でございますが、まとめまして、ご報告をさせていただきたいと考えております。

私のほうからは、以上でございます。

○清水課長 ただいま、小中一貫教育に係ります質疑、意見、要望事項につきまして説明のほうでございましたが、こちらにつきまして、何かご意見等がございましたら、何な

りとよろしくお願いを申し上げたいと思います。また、先ほどの説明についての補足説明等もありましたら、よろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

○田中教育長職務代理者 時間がもったいないので、ためらわずに感じたことを先に申して、皆さんの意見を出すきっかけにさせていただきたいと思います。

報告された説明会の内容の中で、私としては、3つほど問題点を挙げてくれたなど、やはりその問題点を活かしていくことが、今後のよりよくなる方法への一つの道じゃないかなと思います。

1つは、防災問題です。

私も防災マップを見たんですが、マップの中で、たしかここは泥流地域であり、浸水地域であるという状況になっています。浸水のほうは2メートル以下の浸水地域に入っています。それから防災のほうでは、維孝館のちょっと西側にある小さなほころのところから雙栗天神社のほうへ上がっていく細い道があるんですが、あそこは何回かなったことがあるんですが、あの谷の泥流というふうに書いてあるように私は見ました。それらについては、砂防ダム等で防げるんじゃないかなというふうに感じています。

それで、東日本大震災で何十年に一度の津波が来て、原子炉が流された、起こるとは思わなかったというようなことが言われていますが、既に指摘されている以上、それを無視して、仮に建てて被害が起こった場合に、責任はとれないなと思います。それで、今の原子力発電所でもやっているんですが、防災の環境評価というんですか、防災の評価というのがあるかどうか知りませんが、その評価で専門家が、ここはこれだけの施設をつくったら防災は大丈夫です、浸水については垂直避難をすれば、むしろ家にいるよりも安全かと考えられるところなんです、泥流だけはやはりきちっとした防災施策をとってほしいと思います。

2点目は、学力が本当に上がるのかという意見が出ました。

学力問題は、私も説明会に出た中では、住民の方がかなり気にしておられる部分だなと思いました。それで、学力問題で私がそのとき感じたのは、秋田県は小規模校なのに学力が高いやないかと、どうなんだという話がちらっと出たのを覚えています、実は、国立教育研究所の研究紀要で「小中学校統廃合の進行と学校規模」というので、秋田県をかなり集中的に調べています、学校規模とか学校数とか。

秋田県の学力が高いという、このところの学力という言い方は、今全国学力テストに限って言っていますけれども、高いというのはかなり皆さん知っておられるんですが、秋田県でやられた内容は、あそこはやはり物すごく小規模校が多いんです。だから、学

校統合を物すごく進めています。これが平成17年から20年までに、新しい当時の知事が「あきた教育新時代創成プログラム」というプログラムをつくられて、学校統合をかなり進められました。そのかわり、統合して30人を超えたら2学級に分けるとか、1年生では25人で2学級にするというように、少人数教育をかなり進めておられるのです。もし具体的にだったら、その資料を読んでいただいたらわかるんですが。

今の小学校のままの1クラスだけだったら、それは学力的に効果が出にくいかもしれません。ただ、学校建設の費用は多くかかるにしても、ランニングコストはこれから30年間、例えば、暖房費一つにとっても、修繕費にとっても、かなり余裕を持ってできるんじゃないかなと。京都府も学力が高いと言われています。京都式少人数教育というやつがありますが、そういう意味では、宇治田原もそういうランニングコストが浮けば、少人数教育を進めることによって、ぜひとも学力の伸長を図ってほしい。

私は、少人数教育を進めることが学力充実に非常に有効だと思うんです。説明会でも少人数の良さをという言い方をしておられますが、大規模校になっても2つの学級を3つ、4つのグループに分けて学習するという少人数授業は実施できると思いますので、その点で学力の問題点になるなと思いました。

3つ目は、やはり通学方法です。

多く出ていたのが通学問題、通学方法で、子どもたちが、例えば乗り物に乗った場合に、今まであった友達との触れ合いや体力とか、歩いたほうが——車に乗ったら体力が減るんじゃないかとか、いろんな思惑が出てきています。費用はもつのか、その辺の通学については、私もどのような形がいいのかわかりませんし、これはぜひとも地域と連絡を密にして進めてほしいと思うわけです。地域によって、通学について、このような方法でないとなつていけないという、やはり特異性というんですか、特徴があると思うので、その辺は地域の声を十分聞いて進めていただけたらと、この3点が、私としては進めるにあたって参考にできるところじゃないかなと思いました。

それから、先に言ってしまいますが、多くの反対意見を聞いた中で、一つは本当に教育が充実するののかという話がありました。私の知っている学校で非常に少人数のクラスでは、先生と子どもが非常に密接な関係を保ちながら、親子のように温かい雰囲気の中で授業が組まれています。それが子どもたちの成長に本当に大事なことなのか。

教育委員会で事前に論議した中では、子どもたちが多様な人格に出会うことによって、豊かな人格形成ができるんじゃないかと、数人の子どもたちだけの触れ合いの中で、非常に親密な関係をつくるだけじゃなくて、豊かな人格をつくるためには、多様な人格と

の出会いがあったほうがいいんじゃないかということで、統合についてのメリットを挙げました。

それから、余り出ていないんですが、2つ目は、これは学校の先生方がおられると出てくると思うんですが、働き方改革にも関係しているんです。学校運営に関して、例えば、同学年で2人の先生が、運動会をやるにしても、学習発表会をやるにしても、図工の授業をするにしても、今度写生をさせようと、写生といたらどこがいいんだろうと、こんな描き方したらどこを指導したらいいんだろうというのは、やはり複数の同学年の教員がおったほうが相談もでき、お互いに力も高まるんじゃないかなと。

それから、例えば七、八人の学校で、校務分掌というか校務分担なんですけど、人権教育なり、特別支援教育なり、道徳教育なり、いっぱい校務分担があります。それを1人の先生が物すごくたくさん持たなければならないわけです。そうすると、山城教育局単位では、各学校にこれはどんな計画でどこまでできていますかという報告事がいっぱい出てきます。そういうときに倍の先生がおられたら校務分担は半分で済むと、そうすると、働き方の中では軽減される可能性が高いと。小さいことを言えば、やはり校務分担を多く持たなければならないというようなことがあって、学校運営について先生方のほうから見ると、かなりメリットになるんじゃないかと。

最後は、3点目にコストです。

2校が1校になった場合に、私もよく耳にしたのは、建設費についてどれだけかかるんやと、やれるのかという話があるんですが、あと30年のランニングコストを考えたときに、それを上手に活かすことによって、例えば、暖房なり、教育施設設備のIT機器というんですか、そういうものでもより多目にそろえられるんじゃないかなと。そう考えれば、より充実した教育環境をつくることができるということを売りにしないと、保護者の方だったり地域の方は余り喜ばれないと、今までと違ってこんなすばらしい施設なり学校になんねやなということをやほりうたわないと、建設費だけでコストの問題を話していくと隘路があるんじゃないかというふうに考えました。

初めに全部言ってしまうてあれですけども、以上です。これをきっかけに、またいろいろ話を出していただければと思います。

○清水課長 ありがとうございます。

ただいま、防災に関すること、また学力問題に関すること、通学問題に関すること、要は教育の充実です。特に先生方の学校運営、働き方改革であるとか、それから最後には、運営に関することということで、教育が充実する環境、ランニングコストも含めて

お話をいただいたところでございますけれども、そのほか何かご意見等がありましたら
お願いしたいと思います。

今、田中職務代理のほうからいろんなご意見いただいたんですけれども、それに対し
て、教育委員会、事務局側等で何かお答えをしていただければ。

○西谷町長 貴重なご意見ありがとうございます。

まずは、防災面。私も大変その点は気にしておるところでございます。小学校は、維
孝館の隣接か近隣というふうな計画でございますけれども、もともと中学校がある自身
がやっぱり心配なところがございまして、黄色の色で土砂災害警戒区域にはなっている、
ほんで田原川の浸水想定。ほんで浸水想定につきましては、ある程度前もってわかりま
すし、それを状況によっては垂直避難ということは可能であろうかと思うんですけれど
も、土砂災害につきましては、昨今の短時間雨量とか見ると、大変心配をするところ
であります。そういう部分については、京都府ともやっぱり相談をする必要があるかなど。
そんな中で、砂防堰堤がいいのか、治山堰堤がいいのか、その辺のところも十分ちよっ
と研究をすることが大事かなということで、その辺もまた指示してまいりたいというふ
うに思います。

また、学力が向上するのかという部分は、確かに、秋田県のことについては僕もお聞
きをしたことがありますけれども、宇治市においては黄檗学園、あれが、ちょっと持っ
てきたんですけれども、11月26日の新聞で、一貫校の中で分離型と一体型という中
では、例えば、小学校6年が中学校に進むときの不安感、この部分については分離型
のほう不安が2倍多くあると、やっぱり一体型のほうがいいですよという、そういう
記事が発表されておりましたけれども、やっぱり1年生から9年生まで一貫して勉強
できる環境になるんじゃないかなというふうに思います。

確かにコストの面——ただ、今の小学校両方についても大規模改修が何年か後には必
ずやってきます。大規模改修でもかなりのお金が要するという中で、1小学校の建設費と
の比較もあるでしょうけれども、先生がおっしゃったように、30年間のコストがどう
やねんという部分もやっぱり考慮できる部分があるんじゃないかなど。そういった中で、
やっぱり一緒になるけれども、できるだけクラスを多くして、人数を少ないクラスにし
て、そういった中で、充実して先生と子どもたちの人間関係、これを密接にしてもら
うと、そういった中で、また今後IT等のIT化、人工頭脳化というところもありますけ
れども、今日、宇治市のほうでも新聞にタブレットを配るというふうなことが載って
おりましたけれども、そういう部分でもやはり緻密に、またそういう環境をさらに強化で

きる要素にはなってくるのではないかなというように思っております。

通学方法、これは多分私が今、例えば、小学校に子どもがおったら同じことをやっぱり考えると思います。これについてはやっぱり地域の方とも連携、相談する中でどういうふうにしていくのかというのは、これは大きな課題ではないかなというふうに感じておるところでございます。

私、以前、新潟県の湯沢町というところの小中一貫校を見に行かせていただきました。そこは保育園も幼稚園も小学校も中学校も1つの中にありまして、小・中の職員室が大きな大きな職員室でございまして、その職員室の中には小学校の先生も中学校の先生も同じところにおられます。それで両サイドに校長の部屋がありまして、小学校の校長はこっち、中学校の校長はこっち。その中で、どうですかと教育長にお話を聞いてみますと、物すごい密接な関係で、同じ職員室で同じいろんなことが相談できると、これはほんまにメリットありますよというご意見をいただいたのは物すごい印象に残っております。

ただ、たくさん学校、中学校も小学校も1つにまとめはりましたので、通学に関しましては、20キロ離れたところからスクールバスで通学している子どももおりますと、1時間ちょいぐらいかかるとかいうところもありますよと、その中で今頑張ってるやっていますよというお話を聞かせていただいたのを今、思い出しております。そういった中で、通学というのは大変課題になろうかというふうに思いますけれども、そういった課題を十分解決に向けて取り組んでいくべきではないかなというふうに思っております。私からは、そういう先生に対するご意見のお答えとさせていただきます。

○清水課長 質疑、意見、要望事項が多岐にわたっておりますので、なかなか絞ってというのは難しいところもあろうかと思っておりますけれども、教育委員の先生方でご意見等いただけたらと思うんですけども、いかがでしょうか。

○大嶋委員 先ほど田中委員からありましたように、小中一貫教育を進めていくことというのは大事ですし、また費用的なところの部分も出ていたと思うんですけども、説明会のところで出てきた中で一つ気になるのは、町のまちづくりの総合計画の部分での捉え方と、今教育委員会等が進めている小中一貫の捉え方がやっぱりずれているところがある。そこをどうクリアするのか、また次期の総合計画の中に何か反映させていくのか。やっぱりこの一貫教育を進めていく中で、どういうふうに子どもの教育をしていくのかということをやったりうたっていないと、いつまでもまちづくりの方向性と違う中で行くということについては、全町的に子どもたちを育てていこうという形にならな

いので、まして、それでいろんなところからそのことが疑問に思われて、いろんな質問が出てきやすくなるのではないかなというふうに思います。その辺の整理がいつなのかもわかりませんし、また大分先であれば、早目に修正というか、そういうのを行いながらしていくということも必要ではないかなというふうに思っています。

それと、私もそうですけれども、たまたま田舎に帰りましたら、母校の小学校の児童が本当に減ってきて、統合されるのも時間の問題やなということを感じて、昔はそれぞれのところに町であったり、村であったり、どこにでも1つの学校があって、これが市町村合併等でどんどんその中で少子化になる、統合していく、どこへどうしていくのかなと、小学校が1つになるのは確実やというようなことも言われています。ほな、中学校は近くに行くのか、行かないのか、その辺のところとかが話題になっていたところです。やっぱり全国的に同じようなところがあって、それぞれのまち、また地域で知恵を出しながら、子どもたちの教育を実現していこうとしているのかなというようにちょっと感じたところです。

○清水課長 ありがとうございます。

そしたら、まちづくりの方向ですか。

○奥谷総務部長 総務部長の奥谷でございます。

ただいま、大嶋委員のほうからご質問がありました、まず総合計画との整合性についてということで、第5次まちづくり総合計画を所管しております総務部のほうから申し上げたいと存じます。

現在の第5次まちづくり総合計画は平成28年3月に策定いたしまして、31年度、来年度いっぱいをもちまして前期部分が計画満了を迎えます。委員ご指摘のとおり、現在の計画の中には小中一貫の記述とございますか、そういうものがない状況でございます。ここもそもそもは策定いたしましたときには、まだその議論が始まっておりませんでしたので、そういうところが入っていない。また、人口部分についてのご質問も、先ほどの資料の中にも、子どもの見込みであるとか、人口との関係も整合性がないのではというようなご質問もいただいたようでございますが、そういうことも含めて、来年度、31年度に後期分の見直しをいたしまして、32年度から新たな計画を策定したいと現在考えてございます。

したがって、来年度、策定の見直しの手続に入りたいと考えておりますので、その中で明らかになってまいります小中一貫の方向性ですとか、人口も一定再度見直し、現状に応じた将来予測等も再度する中で、一定見直しをかけたいというふうに考えてお

るところでございます。

その件につきましては、以上でございます。

○清水課長 そのほか、教育委員さんのほうで何かございましたらお願いしたいと思えます。いかがでしょうか。

○西谷町長 今回の総合計画は、一応人口を増やしていこうという中で、子どものほうが減ってきて単学級になるからということで統合という、そういう部分もありますけれども、私自身にしたらやっぱり当初お話しさせてもらったとおり、選ばれる学園というのを僕はほんまに目指してほしいなど。その中で町外から、宇治田原の維孝館学園という形になるかはあれですけども、あそこはすばらしい学校やと、それで教育環境もいい中で、自然環境もいい中で、文化環境もいいという、そういう学校を目指していくことによって、逆に減っている人口が増えてくるというのを、僕は甘いと思われられるかもしれへんけれども、町を預かる人間としたらやっぱりそういうことを物すごい期待する。下京区の学校なんか特に集中して移住してはると僕らは聞いておるんですけども、それがこれやからというのも、僕ももう一つわからへん部分があるんですけども、何かそういうのを期待します、僕は。

以上です。

○山本委員 私、今年度、学校施設整備の基本構想なり方針というものが、この3月に向けて決まっていくのではないかなと期待しておったところなんですけど、いかんせん、町民アンケート調査等もございましたし、内容的にも大変多岐にわたるということで、非常に内容的に難しい判断を迫っていった。その中で、まちづくり構想なくしては教育改革なしということでございまして、まだ見込み半ばということになりますと、非常に我々の教育構想が頓挫されるということ、遅れる可能性が出てくるかなと。それにあたりましては、まず行政側からの確固たる方向性を指し示していただかないと、非常に大きな問題につながるのではないかなと危惧するんですけど、その辺いかがですか。

○清水課長 今、学校施設整備の方針が遅れていることもあり得るのではないかとというようなご意見ですけども、そのあたりどうでしょうか。

○奥谷総務部長 まちづくり総合計画の観点から再度申し上げたいと思うんですけども、確かに委員ご指摘のとおり、町としての将来像をしっかりと描かないとこういう事業を進めることができないというのは、おっしゃるとおりでございますので、先ほども申し上げましたように、そういう見直しの中で、しっかりと今後のこういう総合教育会議のご議論等も踏まえ、町としての方向性をしっかりと出していく必要があるのかなと、私とし

ては今考えておるところでございます。

以上です。

○山本委員 基本的な考え方の3つを申しますと、1つは、教職員が持っている力と申しますか、学校力というか、そういったものを発揮できる施設がまず1点。それと2点目が、9年間を見通した教育活動とか、学校運営に適した施設環境の確保。それで3点目が、地域ぐるみで子どもたちと学びの場を提供するとか、そういうような施設環境を確保しようと思いますと、やはりまちづくりなくしては、先ほども言ったように、非常に難しい問題で核心がつけられないわけなんです。その核心をつけるための構想というか、方向づけを指し示さない限り、我々教育委員としては非常に難しい判断ではないかなと思うんですけれども。

○光嶋教育部長 先ほども奥谷部長のほうからございましたけれども、どうしても平成28年度に第5次の総合計画が出されているというところで、ちょっとどうしても考え方、進め方の根幹になる部分で、その構想の中にうたわれてないというずれが生じていることは、我々教育委員会としても思っております。

そのことについては、来るべきそういう見直しの作業というのはもうすぐやってまいりますので、今、小中一貫の教育を進める中であっては、課題、意見の説明ができますか、ご理解いただけるような方向づけについては、今後の作業の中で進めていこうということで、総務部局のほうとのやりとりは進めております。

したがって、今、山本委員がおっしゃっていただきました点については、これは日々我々が教育委員会の開催をお願いする中で、委員のほうからもおっしゃっていただいていることとございますので、その点は十分反映させて総合計画の中に挙げていきたいというふうに思っております。そうすることによって、基本構想の中での位置づけというのも明確になると思っておりますので、その点については、タイムラグが生じるよということは重々ご指摘いただいておりますけれども、我々としても認識する中で対処してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○清水課長 そのほか、いかがでしょうか。

○杉野委員 先ほども町長がおっしゃられたように、選ばれる学園、よりよい教育環境を準備したいということは、私たち教育委員も全て思っていることと申すし、小中一貫教育というものを進めるに当たってということで、教育委員会の中でもいろいろ話はしてきたのですが、そのためにはどうしたらいいのかということなんですけれども、やはりい

ろんな説明会の中で一番思われていることは広報かなど、町からの発信がやはり少ないのが一番問題とするべきところではないのかなと私は考えています。

教育と一言で言いましても、それは学校だけのものでもないですし、子どもたちだけのものでもないですし、家庭だけのものでもないですし、やはり地域一体となったものが教育だと私は考えております。

その中で、まだ宇治田原町という町の中で、この学校に対しての関心がもう一つ盛り上がっていないような気がするの、やはり発信が今まで余りなかったからだと私は思っています。一貫教育というのは、もう何年も前から始まっていることであって、そのことについて理解が深まっていなかったということは、やはり今までの広報のあり方に少し問題があったのではないかなと思っています。

なので、一つ一つのことを説明するのはとても大変なことだとは思いますが、ここにあった意見のように、せめて学期に1回、数カ月に1回は発行して、一貫教育というものに対してだけの広報というのを出してはいかがかなと私は思います。

以上です。

○清水課長 ありがとうございます。

そのあたり、一貫教育に対する広報の面をお願いします。

○光嶋教育部長 ただいまご指摘いただいた点についてでございますけれども、ご指摘いただいてまことに申しわけございませんが、その弱い点については、我々としても大いに反省をしておるところでございます。

先般、地域の方々に対する説明を行った後に、保護者の方を対象にした説明を行った、その説明を行う中でも、より多くの方に来ていただいている現状があるかということ、決してそうではございません。両小学校で実施した折には、来てはいただいておりますけれども、皆さん全員がお越しになっていただいたわけではございません。そういったことについては、当然いろいろお考えもあろうかと思うんですけれども、教育委員会の事務局といたしましても、そういった点については、十分ご理解いただけるような内容をきめ細かにフォローしていく必要があるんだというふうに思っております。

ついでには、今後、この前に学校の保護者のほうからもご指摘ございましたような内容については、ご理解いただけるような説明できる場を設けてやっていきたい。また、一般の方むけに対する広報に関しましては、「町民の窓」を通じまして、今このような状態ですといったこともできようかというふうにも思いますし、また、別途独立した広報の仕方もあるというふうには思っておりますので、今後、そういった点について努めて

まいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○清水課長 そのほか、いろいろご意見伺っておりますけれども、教育長のほうから何かありますか。

○奥村教育長 私もこの小中一貫のいろんな話は聞いているんですけども、皆さんに比べるとまだまだ浅いんですが、田中委員がおっしゃられました話の中で、物すごくメリッ的なことをたくさん聞かせてもらったなというふうに思います。例えば、よく聞くのは秋田県ですし、福井県ですし、そういう日本海側は小規模でやっているから学力が高いというふうなことをよく聞くんですけども、そうじゃないんだと、今は統合も進められていて、実は今京都式が35人をあえてまた30人に、また1年生はもっと少ない数というように少人数学級、そういうようなことを進めていく、ですから、一体型になってもそういうことを進めないと学力向上にはつながらない。

それともう一つ、やはりコストの問題も今建てたら幾らということは数字的にすぐ出てきますけれども、やっぱり委員さんおっしゃいましたように、2つから1つになると、やはり2倍にはならなくても1.5倍の経費を見ていって、子どもたちにそれなりの教育をさせられる。例えば、施設についてもそうですし、いろんな備品についてもそうですし、そういったことを考えると、将来的なコストを考えて、経費も減り、また子どもたちにも十分な環境がつかれるんじゃないかと、そういったこともメリットとして話していけるんじゃないかなというふうなことで今聞かせていただきましたし、その辺は声を大きくして言えるところじゃないかということを思いました。

以上です。

○清水課長 そのほか、いろいろ意見をいただいておりますけれども、ほかに、今までのご意見に対してでも結構ですし、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大嶋委員 小中一貫をやることによって、学力が本当に上がるのかということなんですけれども、それぞれの立場というか教育委員の立場、それから町長さんであったり、または議員さんであったり、または保護者、地域の人、それぞれどう思っているのでしょうか。学力をどう捉えてはるかというのが大きな違いがあって、だから、学校としては、こういうふうにしてやっているけれども、そやけど保護者としたら、このところを力をつけてほしいんやという思い、それからまた地域としては、それが違っていたら、これは後々、学力を上げるといったのに、何やねんこれはというような大きなことにならないかなという心配をしています。

ですので、この学力というのは少し具体性のあるものでないと、説明するだけでも学力を上げます、説明会の中でこんな、こんな、こんなことができるのかとか、または聞いていて、自分が思っている学力、これを上げてくれるんやなという、取り違いとか、ボタンのかけ違いが始まるころかなと思うんで、その分はやっぱり整理して、できるだけ同じ物差しを持って進めていくことが大事かなというふうに思います。その中で、指標を全国の学力テストとかそういうようなものにしていくとか、いや、この力についてはその学力テストやなしに、ここの部分を指標にするとか、そういう幾つかの指標を持ちながらやっていかないと、学力が上がったという実感が湧かないままに終わってしまうんじゃないかなと思います。

その辺の整理をしていかないと、本当に、やる限りはやっぱり成功させたいし、学力を上げてあげたい、それが見える形にしてあげたいということなんで、その辺のところの整理が必要かなというふうに思っています。

○西谷町長 確かに、それというのはやっぱり皆さんが一番思っていることで、一体型になったら学力が上がる、その学力の認識がどうなんだと、それぞれ。僕らは教師じゃないんで、素人的な考えになっちゃうのかもしれませんが、例えば、全国学力テスト8分の5やったときがありました。これはもうすごいなと思ったじゃないですか。それが8分の1になり、8分のゼロ、ほな学力が落ちてくるのか、落ちへんのかというところから辺が、その8分の何ぼだけで見てしまうとそうなのかもしれへんけれども、全体的にどうやってんという。例えば、平均よりはぎりぎり上には乗らへんかったけれども、そこそこのやつがみんなそのとき頑張ってやってきよったんやと、それやったら上がっていることになるし、その辺の分析というか、やっぱりそういうのもしっかりするべきであらうかと思えます。

学力って勉強ばかりじゃなくて、日ごろの態度なり人間性なりと僕は考えたりするんですけども、僕もPTAを長いことやらせてもらっている中で、例えば、維孝館中学生のヘルメットの着用率、これは以前は散々たるもので、前のころというか、もう補助せえへんと怒らったこともありました。せやけれども、それもやっぱり小学校、中学校でいろんな連携をしてもらって、今の中学生はほぼ100%ヘルメットをかぶって、きちっとやっぱり通学している。これも僕、一体型にはなっていないんですけども、それも一つの結果かなという。

ほんで、ちょいボラとかいろんなこともやってくれますし、そういった中で、例えば、町でふるさとまつりや平和のつどいやいろんなことに参加もしてくれて、協力してくれ

る。これも一つの生きる力の学力かなというふうに僕は感じるころであって、その辺をほんまに素人的に考えると、すぐに点数ばかりということも思いがちなんですけれども、そうでもない部分もたくさんあるなど、今、委員がおっしゃったとおりに思うんで、その認識を共通していくというのは、僕も非常に大事なことかなと。ほんで、結果というのをやっぱり何らかの形で、ここからこうなりましたというのをやっぱり僕らも欲しいんで、やっぱりその辺は十分に協議する必要があるのかなという気がしますけれども、私も。

○大嶋委員 先ほどの学力指標を共通化した後に、よく言われるP D C Aでグラフをつくって、実際に実践して、チェックをして、ほんでどうやったんやということで、それでまた次の新たに改善したプランをつくっていくということの繰り返しをやっていくことによって、学力は上がるものであると思うんで、結果だけを見てどうこうして、せやけれども、その結果が出たけれども、これに対してはどういうことを今まで取り組んだ、結果はこうやった、ほな次はどうするんだということをしていかないとだめだということと、意外とその結果を見たときに注意しなければならないのが、維孝館というのは、小学生もそうだけれども約100名前後なんですよ。この子らの結果を見ているだけなんです。だから、年によってこれはころっと変わります。

普通、定期テストでやっているのも10点ぐらい違うと、同じテスト問題をやっても10点違う場合もあります。ほんだら、その低かった子らをおまえらあかんという捉え方をするのか、いやいや、先ほどちょっと町長言われていましたけれども、実は前の年はもっと悪かってんと、それが10点上がってるねんと、それをどう教師なり大人が評価していくのか、その観点がやっぱり必要なかなと。それを繰り返すことによって、学力は上がっていくわけですね。その学年の学力をはかって、それで是非を言っているわけです。これでは宇治田原の教育効果というか、それがあったのか、なかったのかというのははかれない状況なんかなと。小さければ小さいほど、そういう観点というか、個人がどれだけ伸びていくか、また伸ばそうとしているプランがあるのかなのか、その辺だと思うんです。

○田中教育長職務代理者 以前にこの総合教育会議で、事務局のほうからどんな議題がふさわしいと思うかという話があったときに、1つは、学力問題をぜひ、学力とは何かということ上げてほしいということをお話ししました。教育委員の中では、学力は若干一人一人もまた違うと思うんですが、教育委員会の思っている学力と、保護者が「うちの子、高校、大学まで行かせたいわ」と思っている学力と、議会さんが思っている学力

と若干違うように、私も大嶋委員さんが言われたように、それが非常に大きな問題であるなと思いました。

それで、ここからは私個人の意見になるんですが、学力テストの結果は、子どもたちの持っている学力の結果の一つのあらわれなんで、それは指標にはなると思うんです。ただ、それが全部ではないというふうに文科省も言われておりますし、一般にもそう言われていると思うんです。

じゃ、そのもとになっている学力とは何かということなんですが、むしろ同じ学力診断テストについて、いろいろ生活実態調査やったか、何かもう一つの調査なんですが、その中で、「あなたは——その問題だったかどうかよく覚えていませんが——学校へ行くのが好きですか」というような問いかけがあるんです。それで、日本は海外に比べて、学校とか学習に非常に好感度を持っていない生徒が多いという結果を見たことがあるんです。

今、文科省が言っている学力で大切にしている部分というのは、学びに向かう力とか態度というふうに言われています。それは賢くなりたいとか、これはおもしろそうだなとか、それをずっと追求していく、我慢してでもこのことを突き詰めていこうというような、そういう力がつけば、その結果としての点数も上がるだろうという言い方だと私も思うんです。

ただ、保護者さんに見てみたら、まず高校に入れる点数を上げてくれよと、こういうことになると思いますので、その辺はしっかり埋めてから話を進めていってほしいなど。だから、町の幹部の方、あるいは教育委員なり、議員さんなりで、学力とは何かという共通理解を一定進めて、町の教育を考えていくことは、意味あることじゃないかなと思っています。

○大嶋委員 選ばれる学校をつくるにはどういうふうにしていくのか、またはそれをどう広報して、他のまちからかわって宇治田原を選んでもらうかになるわけですね、今度は。1町1中ですということで、1つしかなくなるということが——宇治田原から私学へ行かれるというのを引きとめるというのもあるのかもわかりませんが、他の市町から宇治田原を選んで来てもらうということになると、そのときに学力問題でいろんな方面からいろんな意見が出て、ほんで学力が低いというのだけがクローズアップされていく、そしたらこれは選ばれるということにはならないので、選ばれようとすれば、やっぱり共通理解をして、そういうふうに進めていく、学校、また家庭、地域のそれぞれの関わり方が、先ほどもありましたけれども、そういう方向性で関わっていく、ほんで、

宇治田原の子どもはこういう形でやって頑張っているよ、その結果として、成績というか、学力のテストがちょっとよくなるか、これは浮き沈みがあるとは思いますがけれども、ただ、この頑張りについては内外にPRできるところかなと思いますので、やっぱりそこが大事かなと思います。

以上です。

○清水課長 今、学力についての捉まえ方がそれぞれで違うということもあって、このあたり、他にお考え等ございましたら、お願いしたいと思っておりますけれども。

○光嶋教育部長 今の学力の問題については、これは常々私も教育委員会だけではなしに、この近隣の教育委員会が頭を悩ませておる問題でございます。その点は委員さん方もよくよくご存じかと思っております。

その中で、まさに大嶋委員におっしゃっていただいた学力が低いことだけがクローズアップされるということは、どうしてもやっぱり避けていけないかん。先ほど町長の話にもありましたヘルメットの問題、こういったことも、大嶋委員さん、現役の校長のころから一生懸命、我々と一緒に取り組んでいただいた結果、今日そういう形になってきておると。

私は小中一貫教育を進める上において、言い方にいろいろご指摘があるかもしれませんが、いわゆる礼儀正しい、行儀のいい賢い子をつくっていきたいということを申し上げたことがございます。まさに、やはり地域として望んでいただく子どもの姿というのは基本そうじゃないか。もちろん学力も充実というか、学力の高いにこしたことはないんですが、やっぱりそういう真面目で礼儀正しい賢い子、そういうことになりますと、きちっとそういう内容を進めていくことによって、いわゆる選ばれる学校の一つのファクターになっていくというふうに思っております。

そういうふうに今ご指摘いただく点については、今まで以上に充実できるような方策といったものが求められると思うんですけれども、そうしたことがやはり小中一貫施設を一体化させていくといったことも含める中で、どんどん進められるかなというふうに考えるところでございます。

以上でございます。

○清水課長 まだまだご意見は、おありだと思いますけれども、やはり小中一貫校に係る質疑、意見、要望事項を今後どのように解決していくか、どの部分を解決していかなければならないのかということ、この場だけではなかなか解決していくというのは難しい部分もあろうかと思っております。今後もこういった機会を通じまして、どうしていくのか

ということも考えていかなければならないということが、今回の会議で先生方のご意見等をお聞きする中で明らかになったのではないかなというふうに考えております。

ちょっと時間のほうも1時間を過ぎてきたところでございます。ちょっとこのあたりで、1つ目の議題でございます小中一貫教育に係る質疑、意見、要望事項についてを終了させていただきまして、その他の部分について進めてまいりたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。そうしましたら、その他に、何かございましたらお願いしたいと思っております。

特にございませんでしょうか。

それでは、ないようでございますので、最後になりますけれども、町長のほうから今回の会議のまとめのほうをお願いしていきたいと思っております。

○西谷町長　まとめといたしますか、お礼と申し上げたらよいのかと思っております。

本日は、小中一貫教育の推進に係る施設整備等々あり方のご意見等々いただきました。大変ありがとうございました。

施設整備に関しましては、両小学校の歴史と伝統を重んじる中で、また将来にわたり子どもたちによりよい教育環境を提供する、これがやはり一番の目的であろうかというふうに思います。そういった中で、維孝館中学校の隣接もしくは近接等々で、小学校の建設を進めてまいるという方向性で進めてまいりたいというふうに思っております。

昨年秋に実施してもらいました住民向けの、また保護者向けの説明会は、大変多岐にわたるご意見等々をいただいたところでございますけれども、そういった中で、教育制度のあり方や、また通学をどうするねや、今お話のありました学力という面についてもどう捉えていくんやと、あと例えば、小学校が1つになるねやったら、今の小学校の跡地をどうするねやと、またあまり広報ができていなかったのではないかなというふうなところ、いろいろと多々課題はあると思っております。そういった中、今後スケジュールにつきましてはお示しをさせていただいておるところでございますけれども、そういった課題等々、ご意見等についても、しっかりと今後ともに協議をしてまいりたいというふうに思います。

防災面につきましても、至急にどういう対応がとれるのかということも、やっぱり京都府とも相談をしていかなければならないなというふうに思っております。そういった中で、目標はよりよい学校、次世代を担う人づくり、これがやっぱり学校の目標であり、宇治田原の将来を担ってもらう人をしっかりとつくっていくんだということが共通点やと思っておりますので、それに向けて取り組んでまいりたいというふうに思いますし、保護者

の方が説明会に来られて、いろいろと不安感も持たれているという部分についても、広報等々によりまして、フォローしていかなければならないというふうに思います。

また、そういった専門的な知識を持った教育委員さんを初め、またどういうふうな形で今後進めていくんやということについても、しっかりと今後考えていかなければならないのかなというふうに思っておりますので、今後本格的に動いていかなければならないというふうに思っております。

ただ、皆さんもご存じのとおり、景気等の問題もありますし、財政等の問題もあります。そういった中で、今世界をリードする中国、アメリカの貿易摩擦等々、日本の経済もどうなっていくのか、また、消費税の増税により経済がどうなるかということもあわせて注視をしていかなければならない、やっぱり先立つものもどうしても必要になってまいります。そういったことも十分考えながら、今後も進めてまいりたいというふうに思っております。

どうか今後ともいろいろとご協力、ご支援賜りますことをお願い申し上げまして、私のお礼の言葉なり、まとめとさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○清水課長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして第2回の総合教育会議のほうを終了させていただきたいと思っております。本日は大変お忙しい中、大変ご苦勞さまでございました。ありがとうございました。